外国人と共に学び、共に暮らす

TOMONI-ともに-

滋賀県地域日本語教育推進事業ニュースレター

2024年度 Vol.1

滋賀県では、外国人住民が地域社会で孤立することなく、安心して暮らせるよう、様々な地域日本語教育推進の取り組みを行っています。今年度も、ニュースレター「TOMONI-ともに-」で、様々な「日本語教育推進」の情報を発信します。

令和6年度　滋賀県地域日本語教育推進事業

滋賀県は、日本の中でも外国人の居住者が増加している地域の一つです。特に令和5年12月には、外国人の人口が39,366人に達しました。外国人県民は、産業や地域社会の担い手としての活躍がより期待されています。

そのためには外国人県民が快適に安全に生活できる環境が必要です。その一つが日本語を学ぶ機会が身近にあることです。

滋賀県では、令和5年度より外国人生活者が日本での生活をより快適に送れるようモデル日本語講座を提供しています。令和6年度は、日野町での日本語講座と全県を対象にしたオンラインでの日本語講座を開講しています。これにより、周辺地域に住む外国人だけでなく、遠方に住む人々も参加しやすくなっています。

令和6年度開講の日野町での日本語講座は、対面での授業を通じて、日本語を学ぶ機会を提供しています。講師やクラスメイトと顔を合わせることで、より実践的な会話練習が可能となり、地域の文化や習慣についても学ぶことができます。

オンラインでの日本語講座は、インターネットを利用して自宅からでも日本語を学べる便利な選択肢です。時間や場所に縛られずに学習できるため、忙しいスケジュールを持つ人々にとって理想的です。また、オンライン環境を活用して、様々な国の受講生の仲間と交流する機会も広がります。そして直接対面して学ぶスクーリングを期間の半ばに設定しています。この事によって、講師との距離が縮まり、受講生仲間の絆も作れると考えています。

このように、滋賀県では外国人が安心して生活し、地域社会の一員として活躍できる環境づくりに力を入れています。日本語講座はその一環として、外国人の生活をより豊かにするための重要な役割を担っています。

（滋賀県地域日本語教育推進事業 統括コーディネーター　久保田展史）

第1期モデル日本語講座を日野町で実施しました。

就職が決まり、途中で受講を断念した受講者の方もいましたが、第1期のたねクラス（入門）、わかばクラス（初級）が12月に無事修了式を迎えました。担当された日本語教師の声をお届けします。

わかばクラス担当
保知 比佐士先生

子育て真っ最中のHさんは「病院で安心して受診できるようになりました」、物流会社で働くGさんは「道案内ができるようになりました」と、それぞれ受講の感想を言ってくださいました。単に日本語を学ぶだけでなく、Hさん、Gさんのように、自分らしさを発揮し、生活を豊かにされていく人が増えていくことこそ、地域の日本語教室の役割だと実感しました。お二人が日本社会の一員としてますます活躍されることを願っています。

たねクラス担当
西山 浩史先生

たねクラス（入門）を担当しました。「学習者が学ぶ目的」を大切にし、「それに必要な日本語は何が適当か」を考えながら、学習者に寄り添う4か月でした。学習者の皆さんはとても積極的に日本語を学んでくれました。日本語教室での活動を通じて、私自身も学習者からたくさんの事を学びました。日野町の多文化共生活動に、ほんの少し力になれた事は、「学習者・関係者の方々・私自身」の夢をかなえる第一歩に微力ながら貢献できたと考えています。

滋賀県主催「令和6年度日本語学習支援者セミナー入門編」
テーマは「やさしい日本語」

令和6年（2024年）9月と10月の2回に渡って、彦根勤労福祉会館で、滋賀県主催「令和6年度　日本語学習支援者セミナー入門編」を開催しました。

第1回の9月21日（土）は、やさしい日本語ツーリズム研究会代表、また一般社団法人やさしい日本語普及連絡会代表理事として、やさしい日本語の社会普及に尽力されている吉開章先生をお招きして、やさしい日本語のコツ「ワセダ式ハサミの法則」を学びました。第2回の10月19日（土）は、やさしい日本語について学んだことを生かすワークショップ形式で、滋賀県在住の3名の外国人の方々とやさしい日本語で交流しました。

覚えよう！「ワセダ式ハサミの法則」

やさしい日本語に「答え」はないが、「コツ」はある。それが、「ワセダ式ハサミの法則」です。まずは、基本の「ハサミの法則」から。

ハサミの法則

はっきり言う・・・「たぶん」「なるべく」「できるだけ」などのあいまいな言い方をしない

さいごまで言う・・・文末は「です」「ます」「ください」のような言い切り型にする

みじかく言う・・・1つの文に内容は1つだけ

1文を短く言うことが1番大事です！
「ワセダ式」を意識しましょう。

ワセダ式

わけて言う・・・つながっている文や名詞を分ける。

せいりして言う・・・言いたいことを整理して、必要な情報だけにする。

だいたんに言う・・・オノマトペなどの豊かな表現や細かいニュアンスはあきらめる。

参考文献

入門・やさしい日本語
外国人と日本語で話そう
吉開 章
はさみの法則で
日本語を伝わりやすく

『入門・やさしい日本語』
（吉開章・アスク出版）

やさしい日本語
3文トレーニング
ハサミの法則
吉開 章
「リスケ」は何ですか？
短い3文で説明する「3文トレーニング」で、コミュニケーションの悩みをすっきり解決！
本村健太郎氏 推薦！

『やさしい日本語3文トレーニング』
（吉開章・駒草出版）

やさしい日本語とは

「やさしい日本語」は、難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語のことです。
（文化庁「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」より）
やさしい日本語が生まれたきっかけは、1995年の阪神・淡路大震災でした。当時、日本人だけでなく多くの外国人も被害を受けました。日本語も英語も十分に理解できなくて、避難に必要な情報を受け取ることができなかったからです。

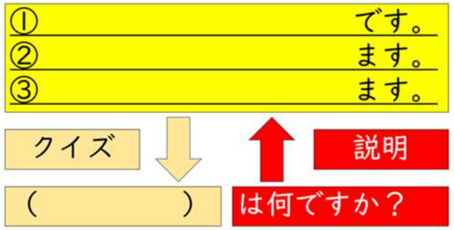
やさしい日本語

高台に避難してください！
↓
高いところに にげてください！

易しい言葉 と 優しい気持ち で 伝えよう

やってみよう「やさ日3文クッキング」！

外国人の方々とコミュニケーションを取らなければならない場面は、例えばAEDや消火器が必要になる時のように、突然やってきます。そんな時に慌てないように、日ごろから楽しくトレーニングしましょう。名付けて「やさ日 3文クッキング」！



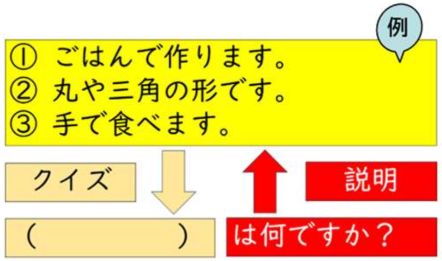
①　　　　　　　　　　です。
②　　　　　　　　　　ます。
③　　　　　　　　　　ます。

クイズ

（　　　　　　）は何ですか？

説明

「3文クッキング」は、「～です」「～ます」という短い文で作られています。（①②③）
これらの3文から答えを当てる「クイズ」です。一方で、3文クッキングは「～は何ですか」という質問に答えることにも応用できます。ハサミの法則のリズムを体で覚え、外国人の「～は何ですか」という質問に答えられるようになる、クイズ形式の楽しいトレーニングです。



例

① ごはんで作ります。
② 丸や三角の形です。
③ 手で食べます。

クイズ

（　　　　　　）は何ですか？

説明

答えは・・・「おにぎり」！

「やさ日3文クッキング」やさしい日本語ツーリズム研究会
https://www.youtube.com/@yasanichi/shorts

やさしい日本語に挑戦！

さあ、みなさんならどう言い換えますか？

①無料 ⇒

②公共交通機関 ⇒

③土足厳禁 ⇒

④朝食 ⇒

⑤キャンセルします ⇒

⑥現金しか使えません ⇒

⑦何を召し上がりますか ⇒

⑧夜道の一人歩きは危険です ⇒

⑨床をピカピカにしてください ⇒

⑩めっちゃ好きやねん ⇒

言いかえ例 ①0円 / お金はいりません ②電車やバス ③靴を脱いでください/ 靴をぬぎます。お願いします。
④朝ごはん ⑤やめます ⑥現金だけ使えます / カードはだめです ⑦何を食べますか
⑧夜にひとりであるくのは、あぶないです ⑨床をきれいにしてください ⑩すごく好きです
※書く場合は、漢字にふりがなをつけましょう。

言いかえのポイント

漢語は和語にする 例：危険→あぶない　清掃→そうじ

二重否定は使わない 例：できなくはないです
→できますが、むずかしいです、
時間がかかります、等

具体的に言う 例：ご両親→お父さんとお母さん
配偶者→夫や妻

カタカナ語は通じない言葉もある 例：食べ放題の意味の「バイキング」は
和製英語

敬語・方言・オノマトペ（擬音語・擬態語）は使わない

例：お電話してもよろしいですか？→電話してもいいですか？
※「お」「ご」を付けると違う発音になるため、認識しにくい。

やさしい日本語で外国人と共に暮らす

町を歩いていて、あるいは駅やスーパーや飲食店で、外国の人たちを見かけることも日常になってきました。日本語とも英語とも全然違う言葉が聞こえてくると、その人たちを「遠い外国から来た、私とは関わりのない人」だと、横目で見ながら通り過ぎる人もいるでしょう。確かに存在しているけれど見えない感じない空気のような存在なのかも知れません。しかし、その外国から来た人たちはあなたの近所に住んでいるかも知れません。また、あなたが働くレストランを利用しているかも知れませんし、あなたの営業先で働いているかも知れません。

皆さんの中には、そんなことを言われても言葉が通じないのだから関わりようがないと思う人もいるでしょう。けれども、例えばその外国人の1人があなたの目の前で財布を落としたとして、あなたがそれを拾って差し出せば、「ありがとうございます」や「すみません」と日本語で礼を言ってくれるはずです。そんな簡単な言葉、日本に住んでいたら話せて当然だ、と思いますか？しかし、日本人が英語のLとRの発音をきちんと区別できないのと同様に、母語の影響を受けて「ありがとうごじゃいます」のような発音になってしまう国の人もいます。もしかしたら、日々練習をして細心の注意を払うことで、正しく発音できているのかも知れません。

日本語を一生懸命学ぶのは、外国人だけでいいのでしょうか。彼らが日本人と同等の発音や敬語やマナーを身につけて日本社会に馴染むのをただ待っているのは、とても長い道のりです。それよりも、日本人側からも歩み寄ったほうが、よほど早く交流できるようになるはずです。相手が難しい言葉の発音や敬語が理解できないなら、私たちが工夫して分かりやすく伝えるだけで、お互いに言葉が通じて理解し合えるかも知れません。つまり、日本人と外国人の共通言語「やさしい日本語」の出番です。

「令和4年度在留外国人に対する基礎調査（出入国在留管理庁）」によると、母語以外の情報提供を望む言語は「日本語」が過半数（52.7%）で最も多く、次いで「英語」（37.6%）、その次が「やさしい日本語」（34.2%）となっています。つまり、在住外国人の多くの方が、英語より日本語で情報発信をしてほしいと望んでいるのです。また、滋賀県の外国人住民の国籍で今年初めて最多となったのがベトナムです。それから、ブラジル、中国、韓国と、いずれも英語を母国語としない国々が続きます。県内で5番目に多いフィリピンではタガログ語を母国語とし、英語も公用語になっていますが、続くインドネシアとペルーも、やはり英語圏ではない国々です。このことからも、滋賀の外国人県民の方々とコミュニケーションをとる手段として、「やさしい日本語」が有効であることがわかります。

滋賀県で令和3年度から取り組んでいる本事業では、日本語教師による生活日本語の学習機会を、対面とオンラインそれぞれの講座で県内の外国人の方々に提供しています。また、県内には30以上もの日本語教室もあります。しかし、彼らがいくらそこで集中的に日本語を学んだとしても、職場や生活場面で日本語に触れる時間の方が圧倒的に多いのです。誰もが同じ地域で暮らす外国人住民の方々の存在を受入れ、「やさしい日本語」で話しかけたり手助けしたりすれば、それだけで理解できる言葉や日本の慣習、文化も少なくないはずです。私たち一人ひとりが日本語学習支援者になれるという意識を持ってみませんか。皆さん自身にもきっと、住み慣れた地域社会に新たな世界が広がることでしょう。

（地域日本語教育コーディネーター　北川　恵子）

滋賀県地域日本語教育推進事業

SNS も ご覧ください！

日本語学習支援に関する情報やモデル日本語講座の報告、生活日本語を学ぶ外国人住民の方々に役立つ情報発信などを通して、皆様と繋がっていきます。

facebook
Nihongo Hajimeyoo

Instagram
shiga_de_nihongo

発行：滋賀県（滋賀県地域日本語教育推進事業 事務局　〒523-0891 近江八幡市鷹飼町537-3（一財）滋賀YMCA内）
文部科学省 令和6年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用　［2025年1月発行］